

## 瀬戸内海における今後の目指すべき将来像と環境保全・再生の在り方 に関する企画専門委員会報告の骨子案

### I 現状と課題

- 1 瀬戸内海の特徴
  - (1) 「庭」としての価値
  - (2) 「畑」としての価値
  - (3) 「道」としての価値
- 2 これまでの環境保全施策の経緯
- 3 環境の変遷と課題
  - (1) 水質
  - (2) 底質
  - (3) 沿岸生態系（藻場・干潟・海岸等）
  - (4) 景観
  - (5) 新たな課題（地球温暖化、生物多様性）
  - (6) 湾・灘ごとの課題
- 4 環境政策をめぐる新たな流れ
  - (1) 環境基本計画
  - (2) 海の再生に向けた総合的な取組
  - (3) 海洋基本法
  - (4) 生物多様性に係る取組

### II 瀬戸内海における今後の目指すべき将来像

- 1 今後の目指すべき「豊かな瀬戸内海」
- 2 豊かな瀬戸内海を構成する要素
  - (1) 美しい海
  - (2) 多様な生物が生息できる海
  - (3) 賑わいのある海
- 3 地域に応じた豊かな海

### III 環境保全・再生の在り方

- 1 豊かな瀬戸内海を実現するための基本的な考え方
  - (1) 良好な生物生息環境の確保に向けたきめ細やかな水質管理
  - (2) 藻場、干潟、砂浜等の失われた沿岸環境と悪化した底質環境の回復
  - (3) 白砂青松、多島美と評される自然景観及び文化的景観の保全
  - (4) 地域で培われてきた海と人との関わり方に関する知識、技術、体制を活かして、地域における里海の創生の推進
  - (5) 生態系構造に見合った持続可能な利用形態による総合的資源管理の推進

- (6) 沿岸防災と環境保全の調和
- (7) 順応的管理のプロセスの導入

#### IV 今後の環境保全・再生施策の展開

##### 1 基本的な考え方に基づく重点的取組

- (1) 良好な生物生息環境の確保に向けたきめ細やかな水質管理手法の開発
  - 1) 環境基準達成の考え方の整理と新たな水質目標の検討
  - 2) きめ細やかな水質管理手法の開発
- (2) 生態系の健全性の回復
  - 1) 藻場・干潟の保全・再生・創出
  - 2) 底質環境の改善
  - 3) 森・里・川・海のつながりの確保
- (3) 景観の保全
- (4) 地域の参画・協働の促進
- (5) 海洋ごみ対策
- (6) 総合的な資源管理
- (7) 気候変動への対応
- (8) 環境配慮型構造物の導入の推進

##### 2 環境保全・再生の推進方策

- (1) 瀬戸内海環境保全基本計画の見直し
- (2) 評価指標の例
- (3) 役割の明確化
- (4) 広域的な連携の強化
- (5) 環境教育・学習の充実
- (6) 調査研究、技術開発の推進
  - 1) 調査研究
  - 2) 技術開発
  - 3) 取組の体制
- (7) 情報発信、広報の充実
- (8) 世界の閉鎖性海域との連携